

令和6年度
事業報告書

公益財団法人アイヌ民族文化財団

目 次

第1	概要	1
第2	諸会議の開催	
	評議員会・理事会	1
	各委員会	2
第3	事業実績	
	I アイヌに関する総合的かつ実践的な研究の推進	4
	II アイヌ語の振興	4
	III アイヌ文化の振興	7
	IV アイヌの伝統等に関する普及啓発	14
	V アイヌ文化の伝承者育成	20
	VI 民族共生象徴空間運営事業	21
第4	賛助会員の状況	33
第5	事業報告の附属明細書	33

第1 概要

当公益財団は、今日存立の危機にあるアイヌ語やアイヌ伝統文化の保存振興及びアイヌの人々やアイヌの伝統等に関する国民に対する知識の普及啓発を通じ、アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、及びその誇りが尊重される社会の実現を図り、もって全ての国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的としており、アイヌに関する総合的かつ実践的な研究の推進、アイヌ語の振興、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統等に関する普及啓発及びアイヌ文化の伝承者育成に係る事業、民族共生象徴空間の管理等に係る事業を実施した。

第2 諸会議の開催

1 評議員会

区分	開催月日・場所	決議事項等
第1回 定 時	6月19日(木) ACU-A 札幌	報告事項 報告第1号 令和5年度事業報告について 報告第2号 令和7年度補助事業に係る予算要望について 報告第3号 レイシャル・ハラスメントへの対応について 決議事項 議案第1号 令和5年度決算報告書承認について 議案第2号 理事選任について
第1回 臨 時	3月12日(水) 北農健保会館	報告事項 報告第1号 民族共生象徴空間の運営状況について 決議事項 議案第1号 令和6年度収支補正予算書承認について 議案第2号 令和7年度事業運営方針について 議案第3号 令和7年度事業計画書承認について 議案第4号 令和7年度収支予算書承認について 議案第5号 令和7年度資金調達及び設備投資の見込みについて 議案第6号 アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律第23条第1項に基づく事業計画書及び収支予算書の認可申請について

2 理事会

区分	開催月日・場所	決議事項等
第1回 定 例	6月4日(火) ACU-A 札幌	報告事項 報告第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 報告第2号 レイシャル・ハラスメントへの対応について 決議事項 議案第1号 令和5年度事業報告書承認について 議案第2号 令和5年度決算報告書承認について 議案第3号 令和7年度補助事業に係る予算要望について 議案第4号 定時評議員会開催について
第1回 臨 時	6月19日(水) ACU-A 札幌	決議事項 議案第1号 副理事長及び専務理事の選定について 議案第2号 重要な使用人を兼ねる理事の選定について 議案第3号 報酬を支払う理事の報酬額について
第2回 臨 時	10月30日(火) 北農健保会館	報告事項 報告第1号 理事長及び常勤の職務執行状況について 報告第2号 令和6年度事業の進捗状況について 報告第3号 令和7年度補助事業に係る予算要望について
第2回 定 例	3月4日(火) かでの2.7	報告事項 報告第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 報告第2号 民族共生象徴空間の運営状況について 決議事項 議案第1号 令和6年度収支補正予算書承認について 議案第2号 令和7年度事業運営方針について 議案第3号 令和7年度事業計画書承認について 議案第4号 令和7年度収支予算書承認について

区 分	開催月日・場所	決議事項等
第2回 定 例	3月4日(火) かでの2.7	議案第5号 令和7年度資金調達及び設備投資の見込みについて 議案第6号 アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律第23条第1項に基づく事業計画書及び収支予算書の認可申請について 議案第7号 重要な組織の変更について 議案第8号 役員賠償責任保険の加入について 議案第9号 臨時評議員会の開催について

3 常任理事会

区 分	開催月日・場所	決議事項等
第1回	5月28日(火) 博物館交流室	協議事項 第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 第2号 令和5年度事業報告書承認について 第3号 令和5年度決算報告書承認について 第4号 レイシャル・ハラスメントへの対応について 第5号 令和7年度補助事業に係る予算要望について 第6号 定時評議員会開催について
第2回	10月16日(月) 管理棟会議室	協議事項 第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 第2号 令和6年度事業の進捗状況について 第3号 令和7年度補助事業に係る予算要望について
第3回	2月19日(水) 財団会議室	協議事項 第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 第2号 民族共生象徴空間の運営状況について 第3号 令和6年度収支補正予算について 第4号 令和7年度事業運営方針について 第5号 令和7年度事業計画書承認について 第6号 令和7年度収支予算書承認について 第7号 令和7年度資金調達及び設備投資の見込みについて 第8号 アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律第23条第1項に基づく事業計画書及び収支予算書の認可申請について 第9号 重要な組織の変更について 第10号 役員賠償責任保険の加入の件について 第11号 臨時評議員会の開催について

4 事業運営委員会

① 委員

職 名	氏 名
委員長	小川 哲也
副委員長	宇治 義之
委 員	宇梶 良子、岡田 勇樹、川上 恵、菊池 基弘、城石 梨奈、菅原 勝吉、戸ノ崎郁美、藤岡千代美

② 開催状況

区 分	開催月日・場所	議 事 等
第1回	9月3日(火) 財団会議室	協議事項 (1) 副委員長の指名について (2) 令和6年度青少年国際文化交流研修事業について (3) 令和6年度アイヌ語指導者育成事業に係る講師の選任について

区 分	開催月日・場所	議 事 等
第1回	9月3日(火) 財団会議室	(4) 令和7年度アイヌ工芸品展企画委員会委員について (5) 令和7年度アイヌ語ラジオ講座講師について 報告事項 (1) 令和6年度各種助成事業の申請・採択状況について (2) 令和6年度各種アイヌ語講座及び実践上級講座実施状況について
第2回	10月10日(木) 財団会議室	協議事項 (1) 令和7年度各種助成要綱について 報告事項 (1) 令和6年度青少年国際文化交流研修事業参加者の選考結果について (2) 令和6年度事業進捗状況について (3) 令和7年度概算要望について
第3回	2月4日(火) 財団会議室	協議事項 (1) 令和7年度事業実施要領について (2) 令和7年度アイヌ文化伝承活動アーカイブス作成事業企画委員について (3) 令和7年度助成事業審査委員について (4) 令和7年度アイヌ関係資料評価委員について (5) 令和6年度アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告掲載審査委員について (6) 令和7年度アイヌ工芸品展中長期計画策定委員について (7) 令和7年度アイヌ文化フェスティバル・普及啓発講演会出演候補者について (8) 令和7年度アイヌ工芸作品コンテスト審査委員について (9) 令和7年度アイヌ文化賞等被表彰者選考委員について (10) 令和7年度アイヌ語指導者育成事業講師について (11) 令和7年度アイヌ語動画講座企画編集委員について (12) 令和7年度アイヌ語弁論大会審査委員について (13) 令和7年度幼児向け絵本(原作)募集選考委員について (14) 令和7年度アイヌ文化普及啓発セミナー開催日程・会場及び講師について (15) 令和7年度各種事業に係る委員候補者について

5 助成事業審査委員会

① 委員

任期 (R7.3.14 ~ R8.1.31)

職 名	氏 名
委員長	菅原 勝吉
副委員長	五十嵐聡美
委 員	小川 哲也、斉藤 大朋、菅原 慶郎、長野 環、藤原 顕達

② 開催状況

区 分	開催月日・場所	議 事 等
第1回	3月24日(月)～25日(火) 財団会議室	令和7年度各種助成事業(1次)に係る審査・選考 ①伝統工芸複製 ②国内文化交流 ③国際文化交流 ④風俗慣習に関する伝承 ⑤出版 ⑥伝統工芸展示公開 ⑦研究
第2回	調整中	令和7年度各種助成事業(2次)に係る審査・選考 ①伝統工芸複製 ②国内文化交流 ③国際文化交流 ④風俗慣習に関する伝承 ⑤出版 ⑥伝統工芸展示公開 ⑦研究

第3 事業実績

I アイヌに関する総合的かつ実践的な研究の推進

1 アイヌ関連研究事業

アイヌに関する総合的・実践的研究を行う事業及び研究成果などの出版に対して助成を行い、アイヌの社会や文化に関する研究の推進を図った。

① 研究・出版助成

- ・研究助成 アイヌの社会や文化に関する総合的・実践的研究を行うものの中で、優れた研究成果の期待できる研究計画に対し経費を助成した。
- ・出版助成 アイヌの社会や文化に関する出版物で、商業ベースに乗らないものや自費出版のため発行部数が少なく、研究者などに行き渡らないものについて助成した。

(単位：千円)

区 分	予算額		申請実績		交付実績		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
研究助成	一般	4	4,600	8	7,755	6	5,715
	奨励	2	600	1	500	0	0
出版助成		7	8,400	2	2,911	2	2,911
合 計		13	13,600	11	11,166	8	8,626

② 研究成果集

- ・登載審査委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委 員	小川 哲也	令和6年度アイヌ民族文化財団事業運営委員
委 員	斉藤 大朋	令和6年度アイヌ民族文化財団助成事業審査委員
委 員	菅原 勝吉	令和6年度アイヌ民族文化財団助成事業審査委員長
委 員	出利葉浩司	放送大学分担講師
委 員	持田 誠	浦幌町立博物館学芸員

- ・審査 (在宅審査)

審査期間	審査対象成果品	摘 要
9月20日(金)～10月21日(月)	4件	各審査委員に成果品のコピーを送付し、在宅審査を行う。

- ・研究成果集の刊行

タイトル	作成時期	作成数	主な配布先
アイヌ関連総合研究等助成事業 研究報告第24号	2月	900冊	道内市町村教育委員会、主な公共図書館、大学 付属図書館、博物館、北海道アイヌ協会等の アイヌ関係団体、研究機関

II アイヌ語の振興

1 アイヌ語教育事業

① 指導者育成

アイヌ語教育の充実に向けて、アイヌ語研究者などの協力を得て、アイヌ語の文法や言語学の基礎を踏まえた効果的な指導方法などについての学習機会を提供し、アイヌ語指導者の育成を図った。

(7) 講師一覧

氏 名	摘 要
北原モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
葛野 大喜	アイヌ語指導者育成第11期修了生
佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授

氏名	摘要
中川 裕	千葉大学名誉教授
八谷 麻衣	令和5年度アイヌ語指導者育成事業講師 アイヌ民族文化財団職員（民族共生象徴空間運営本部）
中井 貴規	国立アイヌ民族博物館研究学芸部教育普及室研究主査
山丸 賢雄	文化振興部伝承課主事

(イ) 講師会議

開催日	開催場所	協議事項等
5月21日（火）	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度フォローアップ参加希望及びカリキュラムについて 令和6・7年度アイヌ語指導者育成事業第14期受講生について 令和6年度第14期第1回スクーリング実施に係るカリキュラム等について その他
10月12日（土）	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度第2回スクーリングのカリキュラムについて
11月23日（土）	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度第3回スクーリングのカリキュラムについて
2月26日（水）	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度アイヌ語指導者育成事業実施に係る振り返り等について 令和7年度フォローアップ実施に係る日程及び会場について 令和7年度スクーリング実施に係る日程及び会場について 令和7年度添削指導実施に係る日程及び指導方針について

(ウ) スクーリング

開催期間	開催場所	受講生
10月11日（金）～10月13日（日）	財団会議室	楠本 直嗣 毛房 千夏
11月22日（金）～11月24日（日）	財団会議室	今 博明 今 真規 新町 征也 原田 啓介
12月6日（金）～12月8日（日）	財団会議室	光野 智子

(エ) フォローアップ講座

開催期間	開催場所	受講生
6月21日（金）～6月23日（日）	国立オリンピック記念 青少年総合センター （東京都渋谷区）	一ノ関清美 上河 彩 川上さやか 葛野 大喜 工藤 小夜 椎久 慎介 早坂 駿 吉村真美子

② 上級講座

アイヌ語教育の充実に向けて、アイヌ語研究者などの協力を得て、中級話者を対象に地域において講座を開設し、将来、アイヌ語の指導者となる上級話者の育成を図った。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	中川 裕	15	4月27日（土）～3月1日（土）	11
阿寒	藤村 久和	3	11月13日（水）～3月1日（土）	16
白老	大須賀るえ子	3	6月1日（土）～10月5日（土）	16
平取	関根 健司	4	5月24日（金）～2月7日（金）	16
三石	大野 徹人	5	6月28日（金）～2月14日（金）	16

③ 初級講座

(ア) 親と子のアイヌ語学習

アイヌ民族の親子を対象とし、アイヌ語話者及びアイヌ語研究者の協力を得て、アイヌ語の振興及びアイヌの伝統や文化の保存を図った。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	米澤 諒	5家族14名	4月6日(土)～3月22日(土)	23
札幌	川上 夏希	5家族14名	6月9日(日)～2月22日(土)	24

(イ) 入門講座

アイヌ語伝承者のさらなる掘り起こしと裾野の拡大を目的にアイヌ語を学習、習得及び継承しようとする意欲のある未経験者を対象とした入門講座を実施し、中級話者及び上級話者の育成につなげた。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	成田 英敏	15名(累計230名)	5月8日(水)～3月12日(水)	20
札幌	川上 夏希	21名(累計80名)	5月25日(土)～12月28日(土)	20
白老	山丸 賢雄	36名(累計189名)	5月17日(金)～12月13日(金)	16
平取	原田 梨乃	27名(累計127名)	6月4日(火)～11月12日(火)	18
むかわ	押野千恵子	17名(累計58名)	6月3日(月)～7月28日(日)	9

2 アイヌ語普及事業

① アイヌ語発信講座

(ア) ラジオ講座

アイヌ語を広く一般に普及させるため、初心者向けのアイヌ語講座をSTVラジオから放送し、多くの人にアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するとともに、アイヌ語やアイヌ文化への理解の促進を図った。

(a) 放送内容

放送局	放送日・放送時間	講師
STVラジオ	毎週日曜日あさ7:00～7:15	岡本 朋也

(b) テキスト

種別	作成時期	作成数	主な配布先
令和6年度Vol.2(7月～9月放送分)	6月	3,000	各アイヌ協会、博物館、図書館、 各アイヌ語教室、アイヌ語関係者など
令和6年度Vol.3(10月～12月放送分)	9月	3,000	
令和6年度Vol.4(1月～3月放送分)	12月	3,000	
令和7年度Vol.1(4月～6月放送分)	3月	3,000	

(イ) 動画講座

初心者向けのアイヌ語の動画講座をインターネットで配信することにより、多くの人にアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するとともにアイヌ語やアイヌ文化への理解の促進を図った。

(a) 配信内容

配信動画	配信方法
年間22本制作	動画共有サービス YouTube

(b) 企画編集委員一覧

役職名	氏名	摘要
委員長	中川 裕	千葉大学名誉教授
委員	北原モコットウナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
委員	佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授
委員	関根 健司	平取町教育委員会生涯学習課アイヌ文化学習係

アイヌ民族文化財団職員(民族共生象徴空間運営本部)

委員	荒田このみ	企画調整部企画調整課主任
委員	山丸 賢雄	文化振興部伝承課主事

(c) 企画編集委員会

開催日	開催場所	協議事項等
4月19日(金)	財団会議室	・令和6年度の進め方について(令和5年度を踏まえて) ・令和6年度の動画内容について
5月31日(金)	財団会議室	・令和6年度の動画内容について

② 弁論大会

アイヌ語を学んでいる人々の学習成果を発表する場として、アイヌ語による弁論大会を開催し、その学習意欲の向上を図るとともに、開催地域の人々にアイヌ語を直接耳にする機会を設けアイヌ語の普及を図った。

(ア) 開催日

12月14日（土）

(イ) 開催場所

かでのアスビックホール

(ウ) 出場者

募集期間 8月1日（木）～9月30日（月）

区 分	発表内容	出場者数	受賞者数
子どもの部	自由	8組 8名	3組 3名
大人の部	口承文芸部門	英雄叙事詩、神謡、昔話など	3組 3名
	弁 論 部 門	自由	2組 2名
口演の部	自由表現部門	自由	1組 1名

(エ) アイヌ語弁論大会審査委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委員長	菅原 勝吉	新ひだか町民族文化専門員
委 員	大野 徹人	ペウレ・ウタリの会会員
委 員	岡田 路明	元苫小牧駒澤大学教授
委 員	中井 貴規	国立アイヌ民族博物館研究学芸部教育普及室研究主査
委 員	山道ヒビキ	文化振興部芸能課課長補佐

(オ) 受賞者一覧

区 分	発表内容	受賞者
最優秀賞	子どもの部	自由 藤戸 毬伊（神奈川県）
	大人の部	口承文芸部門
弁 論 部 門		楠本 直嗣（小樽市）
優 秀 賞	子どもの部	自由 新倉 和果（静岡県）、新倉 和苗（静岡県）
	大人の部	口承文芸部門
弁 論 部 門		高橋 祐紀（平取町）

(カ) 成果品

種 別	作成時期	作成数	主な配布先
出場者募集ポスター	7月	800	各アイヌ協会、博物館、図書館、各アイヌ語教室、アイヌ語関係者など
出場者募集チラシ	7月	4,800	
来場者募集チラシ	11月	5,000	
プログラム	12月	350	来場者へ配布
報告用動画	1月	—	財団ホームページにて公開

Ⅲ アイヌ文化の振興

1 アイヌ文化伝承再生事業

① マニュアル作成

アイヌの伝統的な生活文化には、有形・無形を含め様々なものがあり、その製作技術や儀礼などが失われつつあることから、テーマ毎に映像と活字による「アイヌ生活文化再現マニュアル」を作成し、広く人々の利用に供して、製作技術などの保存・伝承を図った。

(ア) 成果品

種 別	作成時期	作成数	主な配布先
活字マニュアル 料理（白糠）	12月	320	博物館、図書館、各アイヌ協会、アイヌ関係団体など
アイヌ文化伝承活動アーカイブス Vol.9	3月	1,000	

(イ) マニュアル作成企画委員一覧

役職名	氏名	摘要
委員長	山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長
委員	貝澤 和明	公益社団法人北海道アイヌ協会事務局長
委員	城石 梨奈	釧路市立博物館学芸員
委員	堀 悦子	アイヌ工芸家
委員	山本みい子	アイヌ工芸家
委員	若園雄志郎	宇都宮大学地域デザイン科学部准教授

(ウ) 企画委員会

開催日	開催場所	協議事項
1月24日(金)	財団会議室	・アイヌ文化伝承活動アーカイブス Vol. 9 映像の試写及び修正点検討 ・アイヌ文化伝承活動アーカイブス Vol. 10 出演者検討

② 実践上級講座

(7) 口承文芸伝承者(語り部)育成

ユカラ(英雄叙事詩)、カムイユカラ(神々の物語)、ウエペケレ(昔話)などの口承文芸の伝統を継承するため、伝承者が継承者へ「語り」を直接指導するなどして、新たな語り部の育成を図った。

開催地区	伝承者	継承者数	開催期間	開催回数
札幌	多原 良子	5	7月29日(月)～12月23日(月)	15
平取	貝澤ユリ子	5	6月11日(火)～12月10日(火)	15
むかわ	大森きよ子	5	6月7日(金)～10月11日(金)	15

(イ) 伝統文化(木彫・刺繍等)指導者育成

アイヌの人々が多く居住する北海道や関東地区において、アイヌの民族舞踊や刺繍、木彫などの講座を開設し、アイヌ文化を担う指導者の育成を図った。

開催地区	講座種別	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	刺繍	宇梶 良子	12	4月28日(日)～3月23日(日)	12
	木彫	八重 清敏	9	6月2日(日)～3月2日(日)	9
	音楽	千葉 伸彦	9	6月2日(日)～3月1日(土)	9
阿寒	編物	堀 悦子	7	12月20日(金)～2月16日(日)	12
旭川	刺繍	太田 奈奈	5	5月29日(水)～2月28日(金)	12
旭川	編物	堀 悦子	5	7月14日(日)～10月7日(月)	12
浦幌	木彫	貝澤 太一	15	6月18日(火)～8月9日(金)	12
長万部	刺繍	桑原 由恵	8	6月6日(木)～12月5日(木)	12
釧路	木彫	伊藤 夕美	10	10月15日(火)～10月31日(木)	12
札幌	音楽	石井 美香	11	5月22日(水)～7月1日(月)	12
札幌	刺繍	飯田 米子	8	7月3日(水)～8月21日(水)	12
札幌	刺繍	藤岡 良子	9	6月4日(火)～10月17日(木)	12
札幌	木彫	早坂 雅賀	9	6月28日(金)～11月27日(水)	12
標津	刺繍	西山美紀子	11	6月15日(土)～10月12日(土)	12
白老	刺繍	山崎シマ子	5	5月15日(水)～2月19日(水)	12
白老	刺繍	岡田 育子	13	7月8日(月)～11月18日(月)	12
白糠	刺繍	桃井 芳子	4	1月16日(木)～3月6日(木)	12
伊達	舞踊	飯島 光子	12	9月25日(水)～10月31日(木)	12
千歳	刺繍	芳賀美津枝	10	5月18日(土)～9月20日(金)	12
鶴居	木彫	八重 清敏	9	9月2日(月)～9月28日(土)	12
苫小牧	木彫	外川タキ子	4	5月17日(金)～7月19日(金)	12
平取	刺繍	貝澤美和子	11	6月17日(月)～1月27日(月)	12
幕別	編物	堀 悦子	5	6月28日(金)～9月28日(土)	12

開催地区	講座種別	講師	受講者数	開催期間	開催回数
芽室	編物	吉根とみ子	8	6月23日(日)～1月13日(月)	12
八雲	舞踊	山田良子	12	5月26日(日)～11月3日(日)	11
八雲	刺繍	三原久美子	10	6月28日(金)～1月24日(金)	12
財団	儀式	平村博	7	11月2日(土)～12月22日(日)	10

③ 伝統工芸複製助成

アイヌの伝統的な工芸技術などを伝承するため、複製品製作を行う個人や団体に対して経費の一部を助成し、その伝承意欲や知識、技術の向上を図った。

(単位:千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
19	9,900	43	14,807	20	7,333

④ 風俗慣習に関する伝承事業

アイヌ文化振興の一環として、文化継承者として次世代を担う人たちが、豊富な経験や知識を有するエカシ、フチからアイヌの風俗や慣習について継承する取組に要する経費の一部を助成し、アイヌ文化伝承活動の促進を図った。

(単位:千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
5	1,250	3	488	3	343

2 アイヌ文化交流事業

① アイヌ文化交流事業

(7) 国内文化交流助成

アイヌ文化の伝承者などを招聘し、アイヌ語や民族舞踊、木彫などを学習・鑑賞・体験しようとする事業に対して経費の一部を助成し、アイヌ文化の理解の促進を図った。

(単位:千円)

区分	予算額		申請実績		交付実績	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
道内実施	33	33,900	91	56,228	84	54,394
道外実施	12	18,000	9	5,330	1	1,267
合計	45	51,900	100	61,558	85	55,661

(イ) 国際文化交流助成

アイヌ文化活動に携わる個人又は団体が、海外先住民族などとの交流を通して、その文化の伝承・保存活動などを学ぶとともに、自らの文化を紹介するため、海外への派遣や海外から招聘する国際交流事業に対して経費の一部を助成し、アイヌ文化の振興と普及啓発を図った。

(a) 派遣事業

アイヌ文化活動に携わる個人又は団体が、海外で文化交流活動を行う事業

(b) 招聘事業

アイヌ文化の活動に関するセミナーなどを国内で開催する際に、海外から講師などを招聘する事業

(単位:千円)

区分	予算額		申請実績		交付実績	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
派遣事業	3	2,800	1	898	1	882
招聘事業	2	800	2	2,000	2	1,538
合計	5	3,600	3	2,000	3	2,420

② 青少年国際文化交流研修事業

アイヌ文化の伝承・保存に関心を持つ青少年について、海外の少数民族や先住民族と交流する場を設け、海外における文化伝承・保存活動の先進事例を学ぶことにより、将来のアイヌ文化の担い手としての自覚を喚起し、もって若年層のアイヌ文化伝承・保存活動への意欲向上を図るとともに伝承基盤の強化を図った。

- ・募集期間 7月22日(月)～8月26日(月)
- ・応募者数 12名
- ・事前研修(研修生8名 事務局3名 協力者1名 事業運営委員2名)

実施日	場 所
11月23日(土)～11月24日(日)	ホテルグランテラス千歳

- ・海外研修(研修生8名 事務局2名 協力者1名)

実施日	実施地域
1月12日(日)～1月18日(土)	フィンランド(イナリ)

- ・事後研修(研修生8名 事務局3名 協力者1名 事業運営委員5名)

実施日	場 所
2月24日(月)	ウポポイ

3 アイヌ文化普及事業

① 伝統工芸展示・公開助成

アイヌの伝統的な工芸技術などを伝承するため、優れた工芸品の展示・公開を行う個人や団体に対して、経費の一部を助成し、伝承意欲や知識、技術の向上を図った。

(単位:千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
4	2,000	8	2,981	6	2,411

② アドバイザー派遣

アイヌの伝統や文化についての理解を深め、技術を学ぼうとする文化団体や学校などからの要請に応じて、専門的な知識や技術等を有する人をアドバイザーとして派遣するとともに、各種学校向けにアイヌ文化体験講座をメニュー化した「学校向け(パッケージ)派遣」を設け、アイヌ文化の振興を図った。

- (7) 委 嘱 260名
- (イ) 派遣実績 436件 延 805名 (学校派遣:小学校 204件、中学校 34件、高校 45件)
- (ウ) 公開講座 11件 延 11名

③ 工芸品展

アイヌの伝統的な工芸技術を用いて製作されたアイヌ民族衣装、生活用具、儀礼用具、民芸品等を広く一般に公開するため、「アイヌ工芸品展」を開催し、アイヌ文化に関する知識の普及啓発及び伝承意欲の向上等の促進を図った。

(7) 工芸品展企画委員

(a) 企画委員名簿

役職名	氏 名	摘 要
委員長	佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター招へい教員
委 員	磯本 宏紀	徳島県立博物館上席学芸員
委 員	植地 岳彦	徳島県立博物館課長補佐
委 員	大和田 努	帯広百年記念館学芸員
委 員	欠ヶ端和也	帯広百年記念館学芸職員
委 員	北原モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
委 員	玄番真紀子	阿波太布製造技法保存伝承会副会長

役職名	氏名	摘要
委員	城石 梨奈	釧路市立博物館学芸員
委員	関根 真紀	アイヌ工芸家
委員	本田 優子	札幌大学教授
委員	松永 友和	徳島県立博物館学芸係長
委員	山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長

(b) 企画委員会

開催日	開催場所	協議事項
6月6日(木)	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・出品資料の選定 ・展示及び図録構成 ・今後のスケジュールについて

(i) 展覧会

(a) 工芸品展名称

「アットゥシと太布一糸がつなぐ文化」

(b) 出品協力先等

国立アイヌ民族博物館、釧路市立博物館、幕別町教育委員会、株式会社十勝毎日新聞社、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、阿波太布製造技法保存伝承会、那賀町教育委員会、個人

(c) 道内会場

- ・会期 9月28日(土)～11月24日(日)
- ・会場 帯広百年記念館(帯広市)
- ・来場者数 3,800名
- ・関連事業

区分	内容等
博物館講座	開催日 ①10月13日(日) ②11月24日(日) 講師 ①本田 優子(札幌大学教授) 「アットゥシについて考える～歴史・伝説・樹皮利用～」 ②城石 梨奈(釧路市立博物館学芸員) 「道東のアットゥシ製作・歴史と展望」 参加者数 ①36名 ②24名
体験教室 「阿波の自然布・太布を 学び、糸を作ろう！」	開催日 10月19日(土) 講師 玄番真紀子、藤田 啓子、坂井 初子(阿波太布製造技法保存伝承会会員)、磯本 宏紀(徳島県立博物館上席学芸員) 参加者数 16名

(d) 道外会場

- ・会期 1月11日(土)～3月9日(日)
- ・会場 徳島県立博物館(徳島県徳島市)
- ・来場者数 6,981名
- ・関連事業

区分	内容等
講演会	開催日 ①1月12日(日) ②1月26日(日) ③2月22日(土) 講師 ①「樹皮衣-つくる技術と受け継ぐ文化」 本田 優子(札幌大学教授) ②「二風谷アットゥシ」と「二風谷イタ」について 山崎 幸治(北海道大学アイヌ・先住民研究センター長) ③「地域の歴史とアイヌ資料-徳島から帯広へ帯広から徳島へ-」 大和田 努(帯広百年記念館学芸員) 欠ヶ端和也(帯広百年記念館学芸職員) 参加者数 ①48名 ②43名 ③86名

区 分	内 容 等
体験講座 「オヒョウ靱皮のブレ スレットづくり」	開催日 3月2日(日) ① 10:00~12:00 ② 14:00~16:00 講 師 川上ききょう (アイヌ伝統工芸家) 参加者数 ① 16名 ② 15名

(ウ) 常設展示

アイヌ文化交流センター内展示スペース、新函館北斗駅等に衣服、木工芸品等を展示

(イ) 現代アイヌ工芸品の展示

(a) ギャラリー展示

- ・名 称 「Spirit of the Ainu-川村則子の世界」
- ・会 期 1月23日(木)～2月28日(金)
- ・会 場 札幌グランドホテル
- ・来場者数 575名

(b) ロビー展示

- ・会 場 北海道庁本庁舎1階、胆振総合振興局、東京都人権プラザ

(オ) 貸出

- ・所蔵資料 21件、所蔵写真 25件、学習トランク 14件

④ 文化フェスティバル

北海道及び北海道外において、広く一般の人々を対象に、民族舞踊をはじめとするアイヌ文化を総合的に紹介するアイヌ文化フェスティバルを開催し、アイヌ民族やアイヌ文化への国民的な理解の促進を図った。

開催日・開催地	内 容	来場者数
6月22日(土) 山形県山形市 山形市民会館	◇基調講演 関根 達人 (弘前大学人文社会科学部教授) 「考古学からみたアイヌ文化」 ◇口承文芸 ankes (原田 梨乃、新町 征也) ◇音楽公演 アイヌアートプロジェクト ◇古式舞踊 白糖アイヌ文化保存会 ◇木彫実演 西山 涼 ◇刺繍実演 貝澤 靖枝	472
8月31日(土) 東京都千代田区 有楽町朝日ホール	◇特別公演 舞香 ◇口承文芸 平村 晴美 ◇音楽公演 Pete ◇古式舞踊 平取アイヌ文化保存会 ◇木彫実演 八重 清敏	727
10月6日(日) 奈良県斑鳩町 いかるがホール	◇基調講演 岡崎 享恭 (同志社大学グローバルコミュニケーション 学部准教授) 「ニュージーランドの先住民民族マオリと多数派パケハの 共存」 ◇音楽公演 福本 昌二 ◇口承文芸 新町 征也 ◇絵本朗読 五十嵐いおり ◇古式舞踊 千歳アイヌ文化伝承保存会 ◇木彫実演 岡本 朋也 ◇刺繍実演 山本みい子	349
1月18日(土) 北海道札幌市 札幌市教育文化会館	◇基調講演 宇井真紀子 (写真家) 「アイヌ、100人のいま」 ◇口承文芸 豊川 容子 ◇古式舞踊 札幌ウポポ保存会 ◇木彫実演 平村 太幹 ◇刺繍実演 阿部 弘美	661

4 アイヌ文化活動表彰事業

① 工芸作品コンテスト

アイヌの伝統的な技術による工芸作品やその技術を活用した現代的創作作品のコンテストを開催し、優秀な作品を表彰して製作技術の向上と芸術創作活動を促進するとともに、応募作品を展示し、アイヌ工芸作品を鑑賞する機会を提供した。

(ア) アイヌ工芸作品コンテスト審査委員一覧

役職名	氏名	摘要
委員長	八重 清敏	優秀工芸師
副委員長	貝澤 和明	公益社団法人北海道アイヌ協会事務局長
委員	印南 小冬	北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部ものづくり支援センター 開発推進部ものづくりデザイングループ研究職員
委員	岡田 育子	優秀工芸師
委員	菅原 慶郎	東京理科大学長万部キャンパス教育部講師
委員	藤谷るみ子	伝統工芸家
委員	万城目 聡	北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部ものづくり支援センター 開発推進部研究主幹
委員	若園雄志郎	宇都宮大学地域デザイン科学部准教授

(イ) 審査委員会

開催日	開催場所	審査対象作品	協議事項等
7月31日(水)	かでの2・7	141点	・委員長の互選 ・一次審査及び二次審査 ・受賞作品決定

(ウ) 表彰式・展示

区分	開催日又は期間	開催場所	来場者数
表彰式	8月5日(月)	かでの2・7	821
展示	8月1日(木)～8月5日(月)		
巡回展示	8月30日(金)～9月4日(水)	有楽町朝日ギャラリー	1,019
巡回展示	10月11日(金)～10月14日(月)	登別市観光交流センターヌプル	336

(エ) 受賞者一覧

賞区分	受賞者	所在地	部門	作品名
優秀賞	西山 涼	平取町	木工	イタ / お盆
	藤井 光	七飯町	刺繍	チカラカラペ / 木綿衣
	川上ききょう	平取町	一般	ショルダーバッグ
入選	荒木 礼美	神奈川県	刺繍	赤木綿地切伏刺繍衣裳
	岡本 朋也	平取町	木工	イタ / お盆
	堀田 陽子	札幌市	一般	タペストリー
奨励賞	居橋 朗	札幌市	木工	マキリ
	小川 弘子	札幌市	刺繍	着物～パラオホ～
	亀田 桃子	長万部町	木工	長万部町有形文化財④複製
	西山美紀子	標津町	刺繍	マンタリ
	馬場千代美	中標津町	刺繍	エムシアッ / 刀下げ
	山下 一美	札幌市	刺繍	イヨイミ iyoimi / 装飾した着物
	会田 美樹	札幌市	一般	タペストリー
	高橋 秋宏	標津町	一般	青年と狼
	邊泥 敏弘	阿寒町	一般	弓でも弾ける共鳴弦付きトンコリ
堀田 陽子	札幌市	一般	テーブルセンター	

② アイヌ文化賞

永年にわたってアイヌ文化の向上、発展に努め、特に功績のあった人に、アイヌ文化賞、アイヌ文化奨励

賞を贈呈して、その功績を顕彰するとともに、アイヌ文化の継承・振興に関わる諸活動を奨励・促進した。

(7) 被表彰者推薦期間

8月19日(月)～9月30日(月)

(イ) アイヌ文化賞等表彰者選考委員一覧

役職名	氏名	摘要
委員長	中村 吉雄	公益社団法人北海道アイヌ協会理事
副委員長	磯部恵津子	白糠アイヌ文化保存会会長
委員	小川 悠治	標津アイヌ協会会長
委員	手塚 薫	北海学園大学教授
委員	堀 悦子	アイヌ文化伝承者
委員	本田 優子	札幌大学教授

(ウ) 選考委員会

開催日	開催場所	協議事項等
11月11日(月)	北海道中小企業会館	・委員長の互選 ・アイヌ文化賞及びアイヌ文化奨励賞の選考

(エ) 贈呈式

開催日	開催場所	備考
1月18日(土)	札幌市教育文化会館	文化フェスティバルと同時開催

(オ) 受賞者一覧

賞区分	受賞者	年齢	所在地	備考
文化賞	加藤 忠	85	北海道白老町	
文化奨励賞(個人)	大川 巖	77	北海道新ひだか町	
	佐々木義一	71	北海道むかわ町	
	杉村 忍	77	北海道札幌市	
	平良 智子	55	北海道釧路市	
	豊田 礼子	74	北海道平取町	
	長谷川邦彦	80	北海道白老町	
	林 明子	82	北海道登別市	
	森田 薫	71	北海道釧路市	
文化奨励賞(団体)	—	—	—	該当なし

IV アイヌの伝統等に関する普及啓発

1 普及啓発促進事業

① 広報情報発信

(7) リーフレット等発行

アイヌの歴史や文化を紹介したパンフレットなどの広報資料を発行し、アイヌの歴史や文化について広く一般の人々の理解の促進を図った。

種別	言語種別	作成時期	作成数	主な配布先
総合版「令和6年度アイヌ民族文化財団のあらし」	日本語版	8月	3,000	図書館、博物館、アイヌ関係団体のほか、主催事業への来場者など
	英語版	8月	1,000	
文化情報版「アイヌ民族～歴史と文化」	日本語版	8月	15,000	
	英語版	8月	5,000	

(イ) ホームページ

インターネット上でアイヌ文化などに関する様々な情報を国内外に発信し、その普及啓発を図った。外国人のために英文のページも開設した。

(a) アクセス数

177,180件(3月31日現在)

(b) 追加掲載

- 動画掲載『アイヌ文化伝承活動アーカイブス 技 Vol. 8』
- 動画及び解説書掲載『アイヌ生活文化再現マニュアル 海の幸の料理 浦河地方』
- 幼児向け絵本『ニンニンケッポのむこえらび』（令和5年度最優秀賞受賞作品）

② 児童生徒向け副教材の作成・配布

アイヌの歴史や文化についての児童・生徒の理解を深めるため、学校教育の場で使用される副読本を作成し、全国の小中学校へ配布してアイヌの歴史や文化などについての知識の普及啓発を図った。

(7) 副教材作成・配布

種 別	作成時期	作成数	配 布 先
小学生用	9 月	66,000	全国の公立小中学校（道内小学校4学年児童および中学校2学年生徒の全員）、都道府県教育委員会、市町村教育委員会、図書館
中学生用		58,000	
教師用指導書		36,000	

(i) 講習会

開催日	開催地	講 師	事例発表者	受講者数
8月2日（金）	札幌市	鹿糠 昌弘	—	35
8月6日（火）	札幌市	千葉 拓士	—	20
8月21日（水）	東京都台東区	鹿糠 昌弘	—	41
8月22日（木）	東京都台東区	千葉 拓士	—	36
1月10日（金）	美唄市	原田公久枝	鹿糠 昌弘、千葉 拓士	31

(ii) 新たな副教材作成検討委員会

検討委員会において新たな副教材のあり方や内容について検討した。

(a) 検討委員一覧

役職名	氏 名	摘 要
委員長	佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター招へい教員
副委員長	加藤 忠	前公益社団法人北海道アイヌ協会理事長
委 員	石田 勝也	札幌市立大学デザイン学部講師
委 員	貝澤 守	二風谷民芸組合代表理事
委 員	鹿糠 昌弘	美唄市立美唄中学校教頭
委 員	北原モコットゥナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
委 員	佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館長
委 員	千葉 拓士	札幌市立新札幌わかば小学校教諭
委 員	中川 裕	千葉大学名誉教授
委 員	中村 吉雄	公益社団法人北海道アイヌ協会理事
委 員	松本あづさ	藤女子大学文学部准教授
委 員	山本 命	松浦武四郎記念館長

(b) 協力員一覧

氏 名	摘 要
田村 将人	国立アイヌ民族博物館資料情報室長
関口 由彦	国立アイヌ民族博物館展示企画室研究主査
深澤 美香	国立アイヌ民族博物館研究交流室研究員

(c) 作業部会

役職名	氏 名	摘 要
部 会 長	北原モコットゥナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
副部会長	谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院教授
構 成 員	鹿糠 昌弘	美唄市立美唄中学校教頭
構 成 員	城石 梨奈	釧路市立博物館学芸員
構 成 員	瀧口 夕美	編集者

役職名	氏名	摘要
構成員	千葉 拓士	札幌市立新札幌わかば小学校教諭

(d) 検討委員会・作業部会

区分	開催日	開催場所	協議事項等
委員会	7月16日(火)	財団会議室	【確認事項】 ・冊子作成に係る基本的方針について ・冊子の概要(ページ数、種類)について ・作業部会の設置、構成員について ・教員向けの導入動画の作成について 【報告事項】 ・冊子の分冊について ・執筆における留意事項について ・執筆項目(章立て)について ・スケジュール案について
作業部会	8月20日(水)	財団会議室	【報告事項】 ・令和6年度第1回児童生徒向け副教材作成検討委員会(7/16)議事録 ・ページ数及び執筆者の検討について
作業部会	11月21日(木)	財団会議室	・執筆依頼の状況について ・本文を除くページの構成について
作業部会	3月7日(金)	財団会議室	・今後のスケジュールについて ・コラム等の執筆者について ・提出された原稿の確認について

③ 親と子のための普及啓発

アイヌの伝統などを内容とした幼児向け絵本の原作を募集し、優れた作品を絵本にして北海道内の保育園などに配布することにより、アイヌ文化についての普及啓発を図った。

(7) 募集期間

6月3日(月)～8月30日(金)

(イ) 応募点数

20点

(ウ) 幼児向け絵本(原作) 募集選考委員

役職名	氏名	摘要
委員長	秋山 里架	文化振興部伝承課課長補佐
委員	下倉 絵美	アイヌ語指導者育成事業第12期修了生
委員	高木 真美	釧路短期大学専任講師
委員	田中 徳光	北海道国立幼稚園・子ども園協議会事務局次長(札幌市立はまなす幼稚園園長)
委員	吉本 裕子	横浜市立大学客員研究員

(イ) 選考

- ・一次審査(在宅審査)

実施時期	審査対象作品数	摘要
9月10日(火)～9月26日(水)	19作品	審査委員に出品作品(写)を送付し在宅審査を行う。

- ・二次審査(選考委員会)

開催時期	開催場所	協議事項等
11月6日(水)	財団会議室	・委員長互選 ・対象作品の審査及び受賞作品の選考

(f) 受賞作品

種類	氏名	作品名
最優秀賞	三島亜紀子 (文) みしまえつこ (絵)	ちりましほのイタクラマツ (ことばのたましい)
入選	—	—
奨励賞	高田 弘子	ペナンペとパナンペ ことりをのみこんだおならうた
	田邊 智子	わたしたちの たからもの
	古澤 ナオ	けちんぼおおかみ

(g) 絵本の刊行

タイトル	作成時期	作成数	主な配布先
ちりましほのイタクラマツ (ことばのたましい)	2月	4,500	全国の図書館、道内の小学校、幼稚園、 保育所など

④ セミナー

アイヌの伝統などについての基礎的な知識を有する方や学校教育・社会教育関係者などを対象に、アイヌの歴史や文化をテーマとする高度な内容のセミナーを開催した。

(7) 札幌会場

- ・開催期間 7月30日(火)～8月6日(火)
- ・開催会場 北海道立道民活動センターかでの2・7
- ・開催内容

日時	講座名	講師	受講者数
7月30日(火) 13:30～15:00	サケの水族館とアイヌ文化	菊池 基弘 千歳水族館館長	35
7月30日(火) 15:20～16:50	関西地区における伝承活動に対する想い	藤戸 裕子 アイヌ文化活動アドバイザー	36
7月31日(水) 13:30～15:00	アイヌ語の方言的多様性	高橋 靖以 北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員研究員	33
7月31日(水) 15:20～16:50	ポジティブ アイヌ?!	藤岡千代美 アイヌ文化活動アドバイザー	29
8月1日(木) 13:30～15:00	北の海に生きる ～北海道のクジラとアイヌ民族～	笹森 琴絵 酪農学園大学客員教授	40
8月1日(木) 15:20～16:50	食の多様性と他との類似性	今 博明 ケラピリカオーナーシェフ	36
8月2日(金) 13:30～15:00	アイヌ民族と北海道の近代化	鹿糠 昌弘 美唄市立美唄中学校教頭	35
8月2日(金) 15:20～16:50	アイヌとともに生きる アイヌ語通辞(通訳)加賀伝蔵について	石渡 一人 別海町郷土資料館学芸員	34
8月5日(月) 18:30～20:00	英国人宣教師デニングが見た明治初期の北海道とアイヌ民族	田辺 陽子 東海大学情報理工学部非常勤講師	37
8月6日(火) 18:30～20:00	子どもの心が動く授業実践の紹介 ～アイヌ民族の生活と文化～	千葉 拓士 札幌市立新札幌わかば小学校教諭	20

(i) 東京会場

- ・開催期間 8月20日(火)～8月28日(水)
- ・開催会場 アイヌ文化交流センター
- ・開催内容

日 時	講 座 名	講 師	受講者数
8月20日(火) 13:30~15:00	アイヌ語の方言的多様性	高橋 靖以 北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員研究員	41
8月20日(火) 15:20~16:50	英国人宣教師デニングが見た明治初期の北海道とアイヌ民族	田辺 陽子 東海大学情報理工学部非常勤講師	43
8月21日(水) 13:30~15:00	関西地区における伝承活動に対する思い	藤戸 裕子 アイヌ文化活動アドバイザー	31
8月21日(水) 15:20~16:50	アイヌ民族と北海道の近代化	鹿糠 昌弘 美唄市立美唄中学校教頭	41
8月22日(木) 13:30~15:00	子どもの心が動く授業実践の紹介 ～アイヌ民族の生活と文化～	千葉 拓士 札幌市立新札幌わかまぼ小学校教諭	36
8月22日(木) 15:20~16:50	ポジティブ アイヌ?!	藤岡千代美 アイヌ文化活動アドバイザー	31
8月23日(金) 13:30~15:00	北の海に生きる ～北海道のクジラとアイヌ民族～	笹森 琴絵 酪農学園大学客員教授	37
8月23日(金) 15:20~16:50	サケの水族館とアイヌ文化	菊池 基弘 千歳水族館館長	33
8月27日(火) 18:30~20:00	アイヌとともに生きる アイヌ語通辞(通訳)加賀伝蔵について	石渡 一人 別海町郷土資料館学芸員	35
8月28日(水) 18:30~20:00	食の多様性と他との類似性	今 博明 ケラピリカオーナーシェフ	44

(ウ) オンライン配信

- ・配信期間 11月6日(水)～11月21日(木)
- ・配信内容

講 座 名	講 師	受講者数
アイヌとともに生きる アイヌ語通辞(通訳)加賀伝蔵について	石渡 一人 別海町郷土資料館学芸員	134
アイヌ民族と北海道の近代化	鹿糠 昌弘 美唄市立美唄中学校教頭	94
サケの水族館とアイヌ文化	菊池 基弘 千歳水族館館長	71
北の海に生きる ～北海道のクジラとアイヌ民族～	笹森 琴絵 酪農学園大学客員教授	84
アイヌ語の方言的多様性	高橋 靖以 北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員研究員	65
英国人宣教師デニングが見た明治初期の北海道とアイヌ民族	田辺 陽子 東海大学情報理工学部非常勤講師	86
子どもの心が動く授業実践の紹介 ～アイヌ民族の生活と文化～	千葉 拓士 札幌市立新札幌わかまぼ小学校教諭	81
ポジティブ アイヌ?!	藤岡千代美 アイヌ文化活動アドバイザー	64
関西地区における伝承活動に対する思い	藤戸 裕子 アイヌ文化活動アドバイザー	55

⑤ 講演会

広く国民一般を対象に、全国各地でその地域の社会的状況を考慮しながら、アイヌの歴史や文化をテーマとした基礎的な内容の講演会を開催し、その知識の普及啓発を図った。

開催日・開催地	演 題	講 師	来場者数
6月22日(土) 山形県山形市	考古学からみたアイヌ文化	関根 達人 弘前大学人文社会科学部教授	472
10月6日(日) 奈良県斑鳩町	ニュージーランドの先住民 マオリと多数派パケハの共存	岡崎 享恭 同志社大学グローバルコミュニケーション 学部准教授	349
1月18日(土) 北海道札幌市	アイヌ、100人のいま	宇井真紀子 写真家	661

⑥ イランカラブテキャンペーン

アイヌ語の挨拶の言葉である「イランカラブテ」をアイヌ文化の情報発信や理解促進のキーワードとして、アイヌ文化等への親近感や共感を高めるための取り組みを実施した。

(7) キャンペーンの展開

広く一般の人々を対象に、アイヌ文化を総合的に紹介するイベント「Welcome to Ainu Culture 出会う感じるアイヌ文化」を開催し、アイヌ文化の普及啓発を図った。

開催日・開催地	内 容	来場者数
11月16日(土) 大阪府大阪市 松下IMPホール	【ステージプログラム】 ◇トークセッション 原田公久枝、結城 幸司 ◇口承文芸 ankes (原田 梨乃、新町 征也) ◇古式舞踊等 PARARU 【ロビープログラム】 ◇木彫実演 居橋 朗 ◇織物実演 柴田 幸宏 ◇アイヌ工芸品展示 ◇版画展示(結城幸司作品) ◇着物試着と写真撮影コーナー	792

(イ) 空港展示(常設)

空港名	一般公開開始日	直近の展示替え	現在の展示品
釧路空港	平成25年12月20日(金)	11月8日(金)	計7点 木綿衣、マキリ(小刀)など
函館空港	平成26年8月27日(水)	11月19日(火)	計13点 木綿衣、タマサイ(首飾り)など
帯広空港	平成28年3月24日(木)	9月27日(金)	計4点 木綿衣、ニンカリ(耳飾り)など
旭川空港	平成30年12月1日(土)	6月18日(火)	計1点 木綿衣

(ウ) 啓発パンフレットの作成・配布

タイトル	作成時期	作成数	主な配布先
ふれてみようアイヌ文化	8月	40,000	アイヌ関係団体、美術館、博物館、観光協会、道の駅など

(エ) 札幌駅におけるアイヌ文化情報発信

JR札幌駅西コンコース北口にある「北海道さっぽろ(食と観光)情報館」内にアイヌ文化情報発信コーナーを設置した。ディスプレイを用いた道内アイヌ関連施設情報の常時上映、アイヌ工芸作品の常設展示、アイヌ関連イベントなどの情報発信を実施した。

施設名	一般公開開始日	直近の展示替え	展示品
札幌駅	令和3年3月1日(月)	1月21日(火)	計3点 アットゥシ(樹皮衣)など

2 アイヌ文化交流センター事業

首都圏に居住するアイヌの人々の交流活動やアイヌ文化の伝承活動などを支援するとともに、アイヌと一般の人々との交流の場やアイヌ文化などに関する情報収集・発信の場として、多角的な機能をもつアイヌ文化交流センターを運営した。

① 常設展示の実施

② アイヌ関係図書や映像資料の閲覧

種別	購入数	寄贈数	総数	備考
図書	42	52	6,179	
映像	0	6	526	DVD 447本含む

③ イランカラプテ・アイヌ文化体験講座

開催日	講座種別	講師	受講者数
7月6日(土)	刺繍	丸子美記子	12
7月20日(土)	刺繍	丸子美記子	11
8月17日(土)	舞踊	宇佐 恵美	11
8月30日(金)	舞踊	宇佐 恵美	10
9月7日(土)	刺繍	島田あけみ	18
9月21日(土)	刺繍	島田あけみ	18
11月2日(土)	アイヌ語	石川美香穂	10
12月19日(木)	木彫	平田 篤史	10
12月26日(木)	木彫	平田 篤史	10
2月8日(土)	音楽	千葉 伸彦	11
2月11日(火)	音楽	千葉 伸彦	12
3月1日(土)	チセノミ	廣野 洋	29

④ 交流センター利用者

利用者数 5,250名 (アイヌ関係者1,477名、一般3,773名)

電話照会 954件

V アイヌ文化の伝承者育成

1 アイヌ文化の伝承者育成事業

伝承者育成事業

アイヌ文化におけるさまざまな技術や言語等を総合的又は分野別に身につけそれらを伝承する者の育成を図った。

① 昼間型

アイヌ文化に関する知識や技術・技能を身につけ、実施地域のニーズを踏まえて策定した伝承者育成プログラムにより、地域のアイヌ文化を根底から支える人材(伝承者)の育成を図った。

区分	事業内容等	開催期間
6期生 2年目	・受講者 4名 ・受講日数 234日 ・講義及び実習	4月1日(月)～3月31日(月)

② 夜間型

アイヌ文化に関する知識や技術・技能を身につけ、特定分野に関する高度な知識・技術・技能の修得を行い、地域のアイヌ文化を根底から支える人材(伝承者)の育成を図った。

区分	事業内容等	開催期間
アットウシ (着物)	・受講者 3名 ・受講日数 48日 ・講義及び実習	4月23日(火)～2月12日(水)
アットウシ (反物)	・受講者 4名 ・受講日数 48日 ・講義及び実習	5月8日(水)～3月19日(水)
イタ (盆)	・受講者 4名 ・受講日数 24日 ・講義及び実習	8月20日(火)～2月12日(水)

VI 民族共生象徴空間運営事業

1 民族共生象徴空間運営管理事業等

① 国立民族共生公園等管理業務

(7) 目的

国立民族共生公園は、アイヌの歴史、文化等に関する展示及び調査研究並びにアイヌ文化の伝承、そのための人材育成、体験交流、情報発信及び豊かな自然を活用した憩いの場の提供、その他の取組を通じてアイヌ文化の復興に関する我が国における中核的な役割を担うことを目的としている。

- ・入場者数 令和6年度 316,398人
(令和5年度 333,097人)

(4) 事業内容

(a) 体験交流プログラムの提供及び伝統芸能の上演

<プログラムの運営企画・実施>

体験プログラムについては、前年度の実績及び来場者アンケート等を踏まえ、各プログラムの見直しなどを実施した。

- ・体験交流ホール、チキサニ広場及びコタン前広場で伝統的な舞踊、歌、楽器演奏等を上演した。
- ・体験学習館でムックリ演奏及び製作体験、アイヌ料理実食及び調理体験、キッズプログラム、アイヌ語プログラム等を実施した。
- ・新規アイヌ語体験プログラム「イタク トマリ」を体験学習館別館3にて4月から実施した。
- ・弓矢体験「アクシノツ」を全天候型（屋内型）としてリニューアルし、体験学習館別館にて7月から実施した。
- ・ドーム型スクリーン映像体験「カムイアイズ」を、バーチャルリアリティ（VR）ゴーグル映像体験にリニューアルし、体験学習館にて8月から実施した。
- ・伝統的コタンで口承文芸実演、丸木舟操作実演・解説等を実施した。
- ・工房でアイヌ文様刺繍体験、アイヌ文様木彫体験、ムックリ演奏及び製作体験等を実施した。
- ・白老町町制施行70周年を記念した事業として制作した白老周辺地域のアイヌゆかりの昔話3作品を上映した。

<園内イベントの運営企画・実施>

- ・ファミリー層や道外からの誘客の見込まれるゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィーク、さっぽろ雪まつり期間において、イベントウィークとして特別プログラムを実施した。
- ・開業4周年記念行事として、踊りと食をテーマとした記念イベントを実施した。
- ・10月に各地域の工芸家やアーティストとともにアイヌアートショーを開催した。
- ・「教育・文化週間」の趣旨等を踏まえ、より多くの方にアイヌ文化を学んでもらうため、文化の日である11月3日に園内無料開放を実施した。
- ・アイヌ文化の伝承活動等が盛んな地域との連携を深化させるべく、10月から11月にかけて阿寒の展示イベント「伝統ト革新展」を実施した。また、1月に平取の展示イベント「森を生かす、アイヌ文化継承のいま～北海道平取町～」を実施した。このほか、7月に三重県松坂市主催による「松浦武四郎 in ウポポイ 2024」を開催協力した。
- ・白老町と連携し、11月に地域の幼稚園保育園の園児による「イルミネーション点灯式」、白老町町制施行70周年記念事業の「ふるさと昔話上映会」、1月に「白老町二十歳を祝う会」を実施した。
- ・冬イベントとして2月にムックリをテーマとした音楽イベントを実施した。

<伝統工芸家等の招へいによる技術の実演>

アイヌ文化の伝承活動と理解促進のため、各地域の伝統技術伝承者を招へいし、工房において製作技術の実演公開を行った。

<保存会による古式舞踊披露>

アイヌの伝統及びアイヌ文化の理解促進を図るため、各地でアイヌ古式舞踊を伝承している保存会を招へいし、体験交流ホールで舞踊等を披露及び発信した。

<夜間プログラムの運営>

- ・夏の夜間特別プログラムに屋外ステージで歌や踊りを披露する「ポロトコタンの夜」を実施した。

- ・冬季において、ウポポイルミネーションを実施した。

<体験交流ホールの運営>

体験交流ホールにおける映像・音響及び照明機材について、演目の演出に応じた操作を行った。また、機材のメンテナンスを適時に実施した。

<休憩スペース等設置>

来場者が園内において快適に滞在できるよう、テント、休憩所等を設置した。

(b) 来場者に対する園内サービスの充実

- ・利用者の利便性を考慮し、エントランス棟インフォメーションをリニューアルした。
- ・エントランス棟及び体験学習館別館2にキッズコーナーを設置し、小さな子ども連れのファミリー層が休憩できる場所を設けた。
- ・多様な文化習慣持つ来場者に対応するため、体験学習館別館2に礼拝室を設置した。
- ・伝統的コタンゾーンにおける園内ガイドを実施した。
- ・ウポポイ来園者の園内移動の利便性向上のため、園内を循環するバスを継続して運行した。
- ・白老町への地元連携の一環として、「ふるさと納税自動販売機」の設置場所としてウポポイ園内のエントランスを提供し、白老町のふるさと納税を促進する取組に協力した。
- ・アイヌ文化やウポポイに関するイントロダクションの充実を図るため、歓迎の広場にウポポイ解説パネル、案内図を設置した。

(c) 広報活動及び誘客促進

一人でも多くの国内外の方々にウポポイに来ていただく目的の下、年間来場者 100 万人達成を目指すために効果的で実効性のある誘客施策を展開していく。

- ・ウポポイホームページについて、内容の充実及びユーザビリティの向上を図るとともに季節に応じた適時の更新を実施した。また、Instagram・FacebookなどのSNSを活用し、ウポポイの見どころやイベント等を適時に発信した。
- ・新聞、雑誌等の出版物におけるウポポイ紹介記事及びテレビ局、ラジオ局が企画する番組への出演協力等を通じ、ウポポイの認知度向上及びPRに努めた。
- ・国際交流事業として、4月に世界先住民族ツーリズムサミットに参加したほか、5月にカナダ先住民、7月にニュージーランド(マオリ)先住民及びポリネシア先住民、11月にアメリカ(アラスカ)先住民をそれぞれウポポイに受け入れ、交流会や意見交換会等を実施した。また、3月に職員が台湾の原住民族文化園区に赴きアイヌ舞踊等を実施した。
- ・旅行会社及びメディアへのPR事業として、7月に香港ブックフェア及び観光ショーケースに、9月にツーリズムEXPO ジャパンにそれぞれ出展した。
- ・JR札幌駅西コンコース北口・アイヌ文化情報発信コーナー内にウポポイ情報発信ブースを設置した。
- ・14時以降の入場料が半額になる14時入場券の導入、各種事業においてウポポイ200円割引券の配布を実施した。
- ・教育旅行誘致拡大に向け、高校向け冬季探究型教育旅行プログラムの提供、アイヌ関連書籍パッケージ貸出サービス「UPOPOY LIBRARY」を開始した。また、高校教諭を対象としたファミトリップを実施した。さらに、1月に、共生社会実現に向けて高校生が民間企業等と共に様々な社会課題の解決に向けて探究するイベント「ウアイヌコロ会議」を実施した。
- ・引き続き旅行会社との観光クーポン契約を行った。
- ・教育旅行催行の旅行事業者等に対し、見学可能な施設等をウポポイ側から提案、調整するなど、学校等教育機関の積極的受け入れ及び満足度向上に努めた。
- ・旅行事業者に対しファミツアーを実施し、一般及び教育旅行の商品造成への意欲の向上に努めた。また、海外インフルエンサー、メディアのファミトリップを実施し、インバウンド誘客のためのweb記事、動画、SNS投稿を行った。
- ・Web上で体験プログラムの事前予約・購入を可能とする機能改良を行った。
- ・TVアニメ「ゴールデンカムイ」とコラボした『ゴールデンカムイと北海道を楽しもう！supported

- by ウポポイ』キャンペーンを実施した。
- ・登別地域への旅行需要をウポポイへの誘客に結び付けるべく「ウポポイと登別を巡る デジタル de スタンプラリー」を実施した。
- ・冬季の誘客促進策として、札幌ーウポポイ間の直行バスを運行するとともに、外国人旅行者向け冬季プロモーションをさっぽろ雪まつり会場等で実施した。
- ・アイヌ文化に精通していない外国人旅行者にウポポイへの関心を喚起するべく、ウポポイの英語サイトをリニューアルした。
- ・3月に特別公演「ウポポイ東京公演 カムイとアイヌの物語『イノミ』」を実施した。

(d) 来場者の安全と安心の確保

防火・防災等危機管理計画及び防災消防訓練の説明会、地震・津波を想定した防災訓練及び白老消防署の指導による救命講習を実施した。

(e) 施設維持管理及び慰霊施設の管理

良好な状態で施設を維持管理していくため、国立民族共生公園、慰霊施設及び管理運営施設の建物・設備管理業務、警備・巡視業務、清掃業務、廃棄物処理業務、除雪業務、利用・案内業務及び植物管理業務を委託した。

② 国立アイヌ民族博物館管理業務

国立アイヌ民族博物館は先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展につなげる活動を行っている。

そのため、展示の企画、調査・研究業務の企画資料調査、教育普及など、博物館の管理運営に必要な以下の業務を文化庁から受託し、実施した。

(7) 展示企画

(a) 基本展示室での常設展示の実施、定期的な資料入替や解説文・キャプションの見直し、多言語対応など展示内容の改善充実

- ・基本展示室の展示資料について、劣化が懸念される染色資料、紙資料を中心に年度内に6回の展示替えを行うとともに、必要なキャプション等の作成と多言語化(英・中・韓)を行った。
- ・以下の3つの改善の方向性に基づき、具体的な対応策を検討・実施した。
 - ①当館のコンセプトを来館者に伝える→ロビーに「基本的な考え方」設置 (8月)
 - ②6テーマの視認性を上げる→テーマバナー、カラーライン等の仮設&検証 (3月)
 - ③展示全体で時代軸を明確化する→「私たちの歴史」のグラフィック改善 (3月)

(b) 特別展及びテーマ展の実施

- ・下記の特別展示及びテーマ展示を開催した(多言語対応済(英・中・韓))。

種別	第6回テーマ展示
主 題	「ミナ ミナ おばけのマ〜ルとすてきなことば」
主 催	国立アイヌ民族博物館
特別協力	中西出版株式会社
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会
会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期 間	令和6年3月16日(土)～令和6年5月12日(日) 58日間
入場者数	29,391名
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	・構成：絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』の原画(またはイラストパネル)を展示するとともに、絵本に書かれたアイヌ語を実際に耳で聞くことができる音声や映像コンテンツを展示した。以下の内容で構成した。

	<p>①「おばけのマ〜ル」と夜の世界 ②絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』について ③映像コンテンツ ④体験型・参加型コーナー ⑤絵本閲覧コーナー</p> <p>・出品協力：中西出版株式会社、札幌市交通事業振興公社、札幌芸術の森美術館、札幌市時計台、北海道立三岸好太郎美術館及び当館収蔵資料 ・展示資料：約100点 ・関連事業：当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計5回</p>
--	--

種別	第8回特別展示
主題	「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展」
主催	国立アイヌ民族博物館、北海道新聞社
後援	公益社団法人北海道アイヌ協会
会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期間	令和6年6月29日(土)～令和6年8月25日(日) 58日間
入場者数	10,841名
観覧料金	大人300円 高校生200円 中学生以下無料(ウポポイ入園料は別途)
事業内容	<p>・構成：藤戸竹喜の芸術世界を以下の7つのテーマで紹介した。 序章 旭川から阿寒へ 1章 樹齢観音 2章 エカシとフチ 3章 森羅の生命 4章 狼と少年の物語 終章 終わりのない旅 特別展示 アイヌコレクション</p> <p>・出品協力：一般財団法人前田一步園財団、正徳寺、鶴雅リゾート株式会社及び当館収蔵資料 ・展示資料：115点 ・関連事業：外部講師による講演会、当館研究員及び学芸員によるギャラリートーク、映画上映など計10回</p>

種別	第9回特別展示
主題	「驚異と怪異 想像界の生きものたち」
主催	国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団
後援	公益社団法人北海道アイヌ協会
会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期間	令和6年9月14日(土)～令和6年11月17日(日) 65日間
入場者数	18,192名
観覧料金	大人300円 高校生200円 中学生以下無料(ウポポイ入園料は別途)
事業内容	<p>構成：「想像界」の生物多様性及び文化史を以下の構成で紹介した。 第一部 想像界の生物相(国立民族学博物館の民族資料を中心に、「想像界の生物多様性」を見せる。)</p> <p>1 水 1.1 人魚 1.2 龍 1.3 水怪</p> <p>2 天 2.1 霊鳥・怪鳥・鳥人</p>

	<p>2.2 天象</p> <p>2.3 天馬</p> <p>3 地</p> <p>3.1 巨人</p> <p>3.2 有角人</p> <p>3.3 変身</p> <p>3.4 霊獣・怪獣</p> <p>3.5 蟲</p> <p>3.6 人間植物</p> <p>Interlude 「驚異の部屋」の奥へ</p> <p>第二部：想像界の変相(驚異と怪異の文化史を辿る。現代のクリエイターたちの作品もとりあげる。)</p> <p>1 聞く (音の怪異、かたちになる以前の存在)</p> <p>2 見る (奇獣・怪物等、自然から逸脱するものの出現・存在の記録)</p> <p>3 知る (知識体系・世界像の中に位置づけられた奇獣・幻獣、異形の民族)</p> <p>4 創る (現代のクリエイターたちが創る、いるかもしれないクリーチャー)</p> <p>4.1 アート：ヤン・シュヴァンクマイエル、</p> <p>4.2 マンガ：五十嵐大介</p> <p>4.3 イラストレーション：ケニ</p> <p>4.4 幻獣観光と商品化：イエティ、ネッシー、クッシー、アマビエ</p> <p>出品協力：市立函館博物館、千歳市教育委員会、東北大学附属図書館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、八戸市博物館、北海道大学植物園・博物館、湯本豪一記念日本妖怪博物館 (三次もののけミュージアム) 及び当館収蔵資料</p> <p>展示点数：約500点</p> <p>関連事業：外部講師による講演会、当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計8回</p>
--	---

種別	第7回テーマ展示
主題	「収蔵資料展」
主催	国立アイヌ民族博物館
後援	公益社団法人北海道アイヌ協会
会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期間	令和6年12月14日(土)～令和7年2月16日(日) 65日間
入場者数	18,063名
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	<p>構成：以下の構成で、当館収蔵品を展示するとともに、資料収集や資料保存など「普段、展示では見えないしごと」について紹介した。</p> <p>○はじめに</p> <p>○収集—さがす、あずかる、みせる</p> <p>1-1 さがす：当館のアイヌ文化関連資料の収集</p> <p>1-2 あずかる：新着資料</p> <p>1-3 みせる：研究員、学芸員のおすすめ資料紹介</p> <p>○保管—みる、まもる、つたえる</p> <p>2-1 みる：診断する</p> <p>2-2 まもる：環境整備</p> <p>2-3 つたえる：形を維持する</p> <p>○活用—しる、さわる、きづく (またはかたる)</p> <p>3-1 しる：資料紹介</p>

	3-2 さわる：体験コーナー 3-3 きづく：交流ひろば 展示点数：50点 関連事業：当館研究員及び学芸員による関連イベント計6回
--	--

種別	第8回テーマ展示
主題	「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」
主催	国立アイヌ民族博物館
開催協力	市立函館博物館
後援	公益社団法人北海道アイヌ協会、北海道新聞社
会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期間	令和7年3月15日(土)から令和7年5月18日(日) 65日間
入場者数	36,030名
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	構成：サンタン交易と呼ばれるネットワークを、以下のテーマから紹介した。 1. サンタン交易とは？ 2. 蝦夷錦を運んだ舟と櫓 3. 色いろな蝦夷錦・サンタン服 4. ガラス玉と銭貨 出品協力：厚岸町教育委員会、釧路市中央図書館、釧路市立博物館、市立函館博物館、函館市中央図書館、北海道大学附属図書館、松前町教育委員会、立教小学校、小田寛貴氏、中村和之氏及び当館収蔵資料 展示点数：約90点 関連事業：外部講師による講演会、当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計10回

- ・次年度開催する特別展及びテーマ展について、下記のとおり計画した。
 - 第10回特別展示「開館5周年記念 ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」
 - 前期：令和7年7月5日(土)～8月31日(日) 58日間
 - 後期：令和7年9月13日(土)～11月16日(日) 65日間
 - 第9回テーマ展示「収蔵資料展(仮)」
 - 令和7年12月13日(土)～令和8年2月15日(日) 65日間
 - 第10回テーマ展示「さわる展(仮)」
 - 令和8年3月14日(土)～令和8年5月17日(日) 65日間
- (c) **新たな生活様式に対応した「バーチャル博物館」の配信及びバーチャル博物館を活用した新たな展示・情報発信等に関する企画立案**
 - ・バーチャル博物館に関しては、既存コンテンツの修正・更新・維持管理を継続し、年4回にわたり新たな特別展示及びテーマ展示の記録撮影を実施した。
 - ・テーマ展示「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」では、撮影のみならず、展示されている重要文化財文書の内容をバーチャル空間上で閲覧できるようにし、深い理解を促す工夫を行った。
- (d) **音声ガイド機の維持・管理及び内容の更新、携帯アプリの配信及び内容の更新**
 - ・携帯アプリについては、コンテンツ配信に加えて保守・管理も行い、常に正常かつ良好な稼働状態を維持した。
 - ・公園設備に関するコンテンツの内容について大幅な更新と多言語翻訳を実施した。
- (e) **博物館/ウポポイにおけるアイヌ語による表示・解説等の策定**
 - ・オンラインシステムを併用しつつ国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議を1回開催し、表現・新語の検討を行った。
 - ・オンラインシステムを併用しつつ国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会を2回開催し、アイヌ語による表示・解説の方針等の意見聴取を行った。

(イ) 調査研究・交流

(a) 調査研究事業の企画・立案

- ・国立アイヌ民族博物館調査研究における基本計画に基づき、調査研究プロジェクトA基幹研究及び
悉皆調査（継続1件、新規4件）、B個別研究（新規7件）、C成果発表支援（継続1件、新規6
件）、K共同研究（継続2件、新規2件）を採択し実施した。
- ・前年度終了済（B課題）・前年度から継続（A課題）についてはポスター発表の実施、前年度終了
済（A課題）は報告書の作成及びオンライン併用の報告会を実施した。
- ・研究推進ワーキング会議を7月と2月に実施した。
- ・博物館内全体研修を1件、自主企画研修を2件5回、予演会研修を6回実施した。
- ・昨年度電子版を発行した国立アイヌ民族博物館研究紀要第2号について印刷を行った。第3号につ
いて、投稿論文の公募及び査読を経て、年度末に電子版を発行した。

(b) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）」の運営等

- ・ブンカラ運営委員会を6月、11月、2月に開催し、各事業に関する協議を行った。
- ・新たに5機関より入会申込があり、73会員機関となった。（博物館等：71（道内：56、道外：15）、保
存会：2）
- ・会員機関を対象としたアイヌの歴史・文化に関する基礎的知識及びアイヌ民族資料の取扱等に関する
研修会をハイブリット形式で11月に実施し、92名の参加があった。
- ・会員機関限定サイトの運用を行った。メーリングリストシステムを導入し、各種連絡及びサイトの更
新情報等を定期的に配信した。
- ・会報『ブンカラ通信』について、8月に3号を、1月に4号を発行した。
- ・ブンカラ共同研究について、ブンカラ重点課題研究（課題設定型）とブンカラ共同利用研究（公募型）
の参加募集を行い、重点課題（継続1件）及び共同利用課題（2件）を採択し、実施した。
- ・ブンカラ協働展示を三重県内の3会員機関（松浦武四郎記念館：松坂市、大黒屋光太夫記念館：鈴
鹿市、石水博物館：津市）にて開催した。会期は11月29日～1月19日（40日間）、3館合計で
2,690名の来館者があった。
- ・ブンカラ協働PRイベントを京都市内の3施設（京都国立博物館明治古都館、京都文化博物館、京都
府立図書館）を会場に開催した。会期は3月13日～23日（10日間）、京都国立博物館明治古都館に
は、7,356名の来場者があった。

(c) 協定締結機関等との連携事業（シンポジウム、共同調査・研究等）の企画等

- ・（公社）北海道アイヌ協会と締結した協定に基づく技術研修を実施した。
- ・一般公開シンポジウム3件及び北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの勉強会2件を開催し
た。
 - ①シンポジウム「アイヌの舟と交易」（5月18日：苫小牧市美術博物館共催）
 - ②シンポジウム「北方先住民の交易と産物」（8月17日：市立函館博物館共催）
 - ③シンポジウム「ニュージーランド国立博物館 テ・パパ・トンガレワの現在 先住民と博物館
の関係を考える」（10月26日：北海道大学アイヌ・先住民研究センター共催）
- ・学術連携協定を締結している北海道大学アイヌ・先住民研究センターと当館で勉強会を2度実施し
た。
 - ①勉強会「文化の盗用—米国ホピ民族の抱える問題」（1月29日：北海道大学アイヌ・先住民研
究センター共催）
 - ②勉強会「先住民観光と観光地において配慮を求める仕組み」（3月27日：北海道大学アイヌ・先
住民研究センター共催）
- ・室蘭工業大学との包括連携協定を締結し（令和5年10月26日）、以下の連携事業を実施した。
 - ①礼拝室設置にかかるプレスリリースへの対応（5月）
 - ②ウィズミュージアムタスクフォースによる「春のウポポイ見学ツアー」の受け入れ（5月：49名）
 - ③科研費説明会及び科研費事務説明会の共催（6月）
 - ④胆振学入門講師派遣（6月）

- ⑤外国人留学生を対象とした「夏のバス研修旅行」の受け入れ（8月）
- ⑥室工大祭イベント「みっとでアイヌを文化体験」への協力（9月）
- ⑦日本北方言語学会エクスカージョンの受け入れ、北海道言語研究会主催のアイヌ語ワークショップへの講師派遣（9月）

- ・財団と札幌大学との連携協定により、1名の職員を講師として派遣した。
- ・財団全体として、国立サーミ博物館 SIIDA（フィンランド）との連携協定を締結した。

(d) 国内外の博物館、大学、研究機関等との連携強化等

- ・日胆地区博物館等連絡協議会総会に3名、全国美術館会議社員総会に1名、北海道博物館大会に3名、北海道博物館協会学芸職員部会総会研修会に2名、全国博物館大会に2名、ミュージアム・マネジメント研修会に1名の職員が参加した。
- ・文化財防災センターの依頼により、能登半島地震文化財等支援事業に1名の職員を派遣した。
- ・東京国立博物館が所蔵するアイヌ関連資料の調査研究に関する覚書に基づき、資料調査を実施した。本研究成果の一部は、令和7年度の特別展示において公表する。
- ・国際交流事業34件を民族共生公園・札幌財団本部との協力の上実施した。博物館交流として、ケ・ブランリ博物館（フランス）及びバルセロナの民族学・世界文化博物館（スペイン）と、それぞれ共同展示を現地で実施することが決定し、企画・準備を行った。カナダ、オーストラリア、台湾、ハワイ、ニュージーランドなどから先住民研究者や学生、パフォーマーを受け入れた。またドイツ考古学研究所、カナダ文明博物館、カナダアジア太平洋財団、ジャパン・ソサエティ・ニューヨーク、東京芸術大学、米国シラキュース大学などの専門機関、オーストラリア大使、中国札幌総領事、駐日英国大使館ウェールズ政府日本代表などの要人を受け入れた。
- ・学術交流等ワーキング会議を11月に1回実施した。

(e) レファレンス業務

- ・利用者からの博物館施設、教育、資料、アイヌの文化・歴史・言語等に関する専門的な内容等に関するお問合せ（レファレンス）の約180件分に対応した。

(f) 科学研究費補助金の獲得に向けた体制構築の実施等

- ・申請書作成にあたっての説明会等を実施した。採択後の運用について等の検討を行った。博物館研究職員の研究体制の確立と、学術論文及び学会誌等への投稿等の取組を継続して強化する。

(g) 資料の収集・保管

(a) アイヌ関係資料の収集（購入、寄贈、寄託等）

- ・アイヌ資料については135件/885点、図書文献資料については購入193冊、寄贈891冊を受け入れた。

(b) 収蔵資料等の整備（クリーニング、燻蒸等）及び適切な保管、整理と管理システム登録等

- ・列品、寄託品のクリーニング作業（約4,000点）や買取資料、図書等について薬剤燻蒸等生物処理を実施した。
- ・旧（一財）アイヌ民族博物館の資料と平成27年度から前年度までの文化庁購入資料についてシステムへの登録作業を行うとともに、一部データの外部公開を行った。

資料登録件数(R7.3.31現在)	14,025件
資料更新件数	6,095件
画像登録件数	17,304件
音声登録件数	14件

(c) 中期的な列品等の修理計画の作成、修理の実施

- ・劣化が進み修理の緊急性の高い民具資料(1点)の本格修理を行うため、外部有識者も参加する列品等修理請負候補者選定委員会において、修理計画等の審査及び業者選定を行った。
- ・2点の列品修理が完了(屏風、卷子)、2点の寄託品修理(舟)が進行中である。

(d) 収蔵資料等の貸出、特別観覧及び資料等の画像利用への対応

- ・下記のとおり収蔵資料等の貸出、特別観覧及び画像利用への対応を行った。

収蔵資料等の貸出(外部)	6件	228点
--------------	----	------

収蔵資料等の特別観覧の許可(外部)	15 件	223 点
資料等の画像利用の許可件数(外部)	28 件	97 点
内部での特別観覧件数	49 件	1,836 点
内部での画像利用件数	8 件	53 点

(e) 科学分析機器等の適切な運用、保守管理

- ・当館設置の科学分析機器等を使用して列品や借用資料等に関する調査研究、展示、保存等に必要分析等を行った。特別展示に伴う借用資料の材質調査(蛍光 X 線)・構造調査(CT)、模型製作(3D プリンタ)など約 300 件を実施した。
- ・定期メンテナンスの実施等、常に当該装置の性能が発揮できるよう保守管理を行った。

(f) 文化財資料の収蔵環境整備 (IPM、燻蒸含む) に関する計画の作成、環境整備の実施

- ・収蔵庫内及び展示室/展示ケース内の空気汚染物質の測定や温湿度制御の実施、害虫トラップの設置による虫菌害の監視など、収蔵環境整備を適切に実施するとともに、当館収蔵庫内の IPM メンテナンスを実施した。
- ・買取資料等の害虫やカビの被害が見られたため、是正対応として殺虫・殺菌処置を実施した。

(g) アイヌ語アーカイブ事業(音声資料のアーカイブ作成、アイヌ語辞典の web 公開等)の実施

①資料公開関連業務

- ・今年度の新規公開資料はなし。2 名の音声資料計 11 時間分を対象とし次年度以降の資料公開に向けて、アイヌ語話者の遺族との交渉に着手した。
- ・今年度は当館未公開資料約 30 時間分の聞き起こしと校閲及びアイヌ語アーカイブ掲載用データを作成した。これらの公開についても遺族と調整した。

②web 上のアーカイブにかかる業務

- ・「アイヌ語アーカイブ」及びその一部「アイヌと自然デジタル図鑑」全体について、校閲及び注釈追加作業を実施した。また、全てのアイヌ語カタカナ表記の「半角」を「小文字」とした、サイトデザインも修正した。

③京都大学との研究協力について

- ・旧(一財)アイヌ民族博物館時代となる 2017 年度から、京都大学河原達也教授及び河原研究室と協力関係にある。6 月に職員向けに講演を実施した(計 1 回)。
- ・同研究室が開発したアイヌ語 AI の音声認識システムにより、館長によるアイヌ語挨拶の練習素材として利用した。また同研究室では、今後も AI を活用した技術などを研究しており、今後の当館の聞き起こし作業等に利用できるよう検討する。

(I) 教育普及

(a) 博物館における社会教育事業(講演会、講座、研修、ギャラリートーク、ワークショップ等)及び博学連携の教育事業(出前授業・遠隔授業等)の企画・立案及び実施

- ・下記のとおり社会教育事業等を実施した。

実施事業	回数・参加者数等	備考
社会人研修	17 団体：20 回 845 名	社会人、教育委員会等
ギャラリートーク	110 回 1,494 名	・誘客 3 ヶ年計画に基づく事業 ・基本的に土・日・祝の 1 日 2 回実施
ホリデーイベント	50 回 2,299 名	工作型 6 件 117 名、講演型 10 件 363 名、ガイド型 18 件 343 名
遠隔授業	2 件計 86 名	幌延町立幌延中学校・問寒別中学校(4 月 26 日：合同)、稚内市立潮見が丘中学校(8 月 28 日)
出前授業	1 件計 129 名	大分県立高田高等学校(12 月 10 日：ニセコ町内宿泊施設)
その他出張イベント	1 件約 700 名	子ども霞が関見学デー(8 月 7 日・8 日)

- ・基本展示室内用のワークシート「展示資料をまもる設備類」を開発し、ホームページからダウンロード

- ードできるようにした（ワークシート3種類の総配架数：25,900部）。
- ・白老町立白老中学校（9月5・6日：2名）の依頼に応じて生徒の職場体験学習を実施した。
- (b) 北海道アイヌ協会との協定に基づく技術研修者の受入及び技術研修の実施**
 - ・協定に基づく技術研修「アイヌ工芸者技術研修会」について、12月から2月にかけて、参加者2名（札幌市、千歳市各1名）を受入れ、木彫について6日の研修を実施した。
- (c) アイヌの人たちに対する研修等の実施**
 - ・「展示資料（アイヌ衣服）複製事業」を当館主催の研修事業として2カ年計画で開始し、2名の研修参加者（音更町1名、中標津町1名）に対して12回（計24日）の研修を実施し、完成品を納品した。また、工房職員1名が複製技術習得等のため本事業に参加した。
 - ・文化財科学グループ企画のアイヌ民族資料の保存について、「分析」「環境」「修復（修理）」に関する研修（2月14日：参加者3名）を実施した。
- (d) 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の受入に向けた実習実施計画の検討・作成**
 - ・博物館実習の受入に向け、当館職員に対してアンケート調査を実施した。結果、問題点が指摘され、現時点での博物館実習を行うにあたり、課題があることが判明した。
- (e) 教育旅行等向け教育プログラムの企画・立案、実施及びプログラムの改善**
 - ・学校団体向けプログラム「はじめてのアイヌ博」を来館した小・中・高等学校等延べ137校、引率含む9,210名に対して実施した。
 - ・プログラム内容を現行の2種類に加えて、「国立アイヌ民族博物館の役割とアイヌ民族についての解説」を中心とするプログラムを新規で追加した。事前学習で「アイヌ民族に関する指導教材」を視聴済の学校やアイヌ文化や歴史についてある程度学習済の学校に推薦できる内容とした。さらに、新規追加したパターンを含む「はじめてのアイヌ博」と「アイヌ民族に関する指導教材」についてA4サイズ両面の案内チラシを作成した。
 - ・冬季探究型教育旅行として、1校（湘南学園中学校高等学校：12月27日実施）1件計14名（事務局含む）に対して、講演を行った。
- (f) 学校の授業で使うアイヌの歴史と文化に関する学習教材の開発**
 - ・「アイヌ民族に関する指導教材（動画教材）」について、事前事後の学習教材としてより有効活用できるように、従来登録制だったものを令和6年度より動画教材と利用ガイドを事前登録なしで利用できるようにした。
- (g) 教員や公務員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する研修の企画及び協力**
 - ・教員向け研修会として「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」を会場とオンラインで7月29日に開催した（参加人数：会場参加23名、オンライン参加14組）。
 - ・「ウアイヌコロ会議」として5校（札幌日本大学高等学校、北星学園女子中学高等学校、北海道岩見沢東高等学校、遺愛女子高等学校、北海道登別青嶺高等学校：11月9日実施）1件計51名（事務局含む）に「はじめてのアイヌ博」を実施した。この事業は、運営本部誘客促進部・誘客促進課等と連携して行った。
- (h) ウェブサイト・SNSの管理・更新**
 - ・展覧会における広報用のページを作成し、関連イベントにおける詳細が書かれたページとともに当館ウェブサイト上で公開した。
 - ・展覧会における広報用ページは、多言語化（英・簡・繁・韓）を行い、各展覧会が開催される前までに公開した。
 - ・「第8回特別展示（藤戸竹喜の世界展）」～「第7回テーマ展示（収蔵資料展）」では、展覧会に関わる情報が毎週SNS（InstagramやFacebook）に掲載されるように広報を行った。博物館でのSNSにおける年間広報実績は54件となった。
- (i) 博物館の各種イベント、展示等に関する広報業務の企画立案・実施**
 - ・「第8回特別展示（藤戸竹喜の世界展）」の特設サイトを5月に公開した。
 - ・「PRTIMES」の「非営利団体サポートプロジェクト」を利用し、専用サイトで「第9回特別展示（驚異と怪異）」から「第7回テーマ展示（収蔵資料展）」までの情報を発信した。PRTIMES「第9回特別展示（驚異と怪異）」における掲載ページは、39サイトに2次掲載済み。「第7回テーマ展示（収蔵資料展）」の特設サイトを5月に公開した。

蔵資料展)」は28サイトに2次掲載済み。

- ・「EventBank」における広報を11月より開始した。12月に「第7回テーマ展示(収蔵資料展)」を登録し、13のサイト、23のアプリに2次掲載済み。
- ・白老町の回覧板における広報を12月に2回実施した。
- ・プッシュ型のツールとして、白老町のLINE公式アカウントで広報できるように準備を整えた。館内全体に周知済み。運用について令和7年度から開始する予定。
- ・広告について、新聞社3社、広告代理店1社と契約した。運営本部広報課とも連携し、各媒体への広報を行った。年間広報実績(第8回特別展示～第7回テーマ展示)は次の通り。新聞(記事・広告含む)：76件、メールニュース：8件、雑誌(記事・広告含む)：23件、WEBメディア：89件、TV番組：4件、WEBプロモーション実施：1件(7月18日～8月7日)

(f) 博物館全体の運営

(a) 博物館運営に必要な物品、役務等の調達

- ・展示備品(文書複製)や特別展の造作等、博物館運営に必要な物品や役務の調達を行った。

(b) ライブラリの運営(図書選書、配架、閲覧、複写等)

- ・特別展示・テーマ展示の会期に合わせた展覧会特設コーナーの設置やライブラリ小展示の実施、図書館間相互利用(ILL)文献複写等料金相殺サービスへの加入等の機能向上を図った。開架は6,447名が利用した。
- ・大学図書館ソリューション(iLiswave-J)への図書登録作業を行い、今年度で1,687冊の登録を完了し、総蔵書数が約33,534冊となった。

(c) 博物館活動状況や成果等の社会発信のため、研究紀要等刊行物の編集/発行と、広報活動の企画立案、広報媒体の作成及び展開

- ・研究成果の社会発信を下記のとおり行った。

内容	件数	備考
論文	9件	査読有5、査読無4
学会発表	29件	国外10、国内19
図書	8件	
寄稿、解説等	42件	
講演会、講義	94件	
各種委員	10件	
外部資金獲得	12件	
表彰・受賞	1件	

- ・当館における研究成果及び活動内容等を研究機関等に発信するために、国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」(年4回：16～19号)を発行した。
- ・国立アイヌ民族博物館年報2022(令和4)年度を編集・発行し、関係機関等に配布した。
- ・国立アイヌ民族博物館研究紀要第2号について印刷を行った。また第3号については、投稿論文の公募、査読を経て、3月に電子版を発行した。
- ・ウポポイ誘客促進事業を通じて博物館の情報発信・広報活動を行うとともに、新聞コラムでの関連記事掲載や、TV等マスコミ等の取材協力等を通じた広報活動を展開した。
- ・特別展、テーマ展開催に際し広報計画を作成し、プレスリリースやマスコミ向け内覧会の実施、ポスター・チラシ等の配布、新聞広告、ホームページ上で広報等を行った。

(d) 館内LAN等情報機器の運用及び保守管理

- ・セキュリティ対策等の環境整備及び保守管理を行うとともに、情報セキュリティ委員会を開催し、各職員による情報漏えい対策を行った。

(e) 博物館施設の維持管理(施設設備管理、警備、清掃、廃棄物処理等)の実施

- ・博物館施設を良好な状態で維持管理するため、建物設備等の点検、24時間常駐による警備、館内各所の清掃、廃棄物処理等を適切に実施した。

(f) 来館者対応業務(受付・案内、音声ガイド貸出・回収、監視、混雑時の誘導等)の実施

- ・博物館内各所(入口、受付カウンター、シアター、基本展示室・特別展示室、ライブラリなど)に必要な要員を配置し、来館者への接客対応や案内等を行った。
- ・博物館サイネージの多言語化(英・中・韓)を実施した。

(g) ウポポイにおけるアイヌ語体験プログラムの実施

- ・2つのアイヌ語体験プログラム(「アイヌ イタカリ アイェ ロ!」、「ピリカ! ビンゴ アキ ロ!」)の実施及び口承文芸実演プログラムをポロチセで実施した。

2 民族共生象徴空間収益事業

① テナント管理事業

(7) 目的

来場者に対して、飲食・物販の基本的サービスに加えて、アイヌの伝統的料理や伝統工芸品などを販売するために、テナント管理を実施した。

(i) 事業内容

テナントの管理

- ・飲食4店舗及び物販2店舗に関し、売上管理、テナント指導(衛生管理、商品管理、利用者サービス)等を実施した。(2月飲食1店舗(焚火ダイニング・カフェ ハルランナ)営業終了)

② 駐車場事業

(7) 目的

車で来場する方のために園内第1駐車場、園外第2駐車場及び慰霊施設駐車場の維持管理を実施した。

(i) 事業内容

(a) 駐車場の維持管理

自動ゲート等の設備の維持管理を行うとともに、必要な警備員を配置し、来場車両の誘導整理を実施した。

(b) 駐車場料金の徴収

自動ゲート及び園内事前精算機により、駐車場利用者からの料金徴収を実施した。また、白老町による令和6年度ウポポイ町民利用促進事業により配付された年間パスポート利用者を対象として駐車料金を無料とした。

③ その他事業

(7) 目的

コインロッカーや自動販売機、コーヒーマシンを設置し、来場者にサービスを提供した。また、ケータリングカー等を配置し、飲食を提供した。

(i) 事業内容

(a) コインロッカーの設置

エントランス棟にコインロッカーを設置し、来場者の利用に供した。また、エントランス棟総合案内所において手荷物預かりサービスを実施した。

(b) 自動販売機の設置

園内6箇所に自動販売機を設置し、来場者の利用に供した。

(c) 総合案内所でのコーヒーの提供

エントランス棟総合案内所にコーヒーマシンを設置し、ドリップコーヒーの提供を実施した。

(d) 収蔵品等の画像使用

列品等を来場者の特別観覧に供した。

(e) パナー広告

ウポポイ公式HPへの民間企業等の広告掲載を受け付けた。

(f) ケータリングカー等の配置

園内適所にケータリングカー等を配置し、来場者の利用に供した。

第4 賛助会員の状況

区 分	入会者数	退会者数	現 在 数	備 考
個人会員	26	6	102	アイヌ文化普及啓発資料としてカレンダーを作成
法人会員	4	0	12	
合 計	30	6	114	

第5 事業報告の附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、これを作成しない。

2025（令和7）年 6 月 23 日

公益財団法人 アイヌ民族文化財団